災害対応、ドローン活用

瑞浪市とROBOZが協定

協定書を交わした石田宏樹社長（右）と水野光二市長＝瑞浪市役所

瑞浪市とドローン（小型無人機）事業者「ROBOZ（ロボッツ）」（恵那市上矢作町）は1日、ドローンを活用した災害時支援協力に関する協定を結んだ。

大地震や土砂災害などの発生時にドローンを活用して、市内の被害状況の把握や行方不明者救助、孤立集落への物資輸送を確保する。物資輸送用として、重さ30キロ、飛行距離15キロのドローンを3月に導入する予定。

市役所で行われた締結式で、ロボッツの石田宏樹社長が「倒壊建物の中にも飛ばせる小型機を含めドローンを約200台所有している」とあいさつ。水野光二市長は「安心安全で暮らしやすいまちへ幅広く連携していきたい。防災訓練でもともに取り組みたい」と話した。

ロボッツは、既にドローンを活用した連携協定を恵那、美濃、海津市と結んでいる。（服部潤）

無断複製・転載を禁じます